

九州運輸局メールマガジン

第428号 令和2年3月12日（木）

運輸安全だより（安全取組事例の紹介）

安全意識・安全運転技術向上のための教育「乗務員が進んで参加することができ、理解しやすい内容の研修会を実施することにより、運転技術や事故防止意識の向上を図り、「事故ゼロ」を目指します。」

弊社はキャリアカーにて商品車を運ぶため、商品がムキ出しの状態であり、積降作業及び搬送時には非常に緊張を強いられるとともに、高い技術が必要になります。

以前は、事故さえなければ良かったという時代で決められた作業手順はなく、先輩から教えられた事がすべてでした。車両事故及び商品事故が多発したことをきっかけに、社長の指導のもと安全はすべてに優先するといった考えを導入し、安全教育に関する専門人員を揃え、事故防止に力を入れるようになりました。安全教育の一例としては、全営業所において以下の内容の安全研修会を開催しています。

具体的内容

- ① 実車を使用した運転操作体験実習を行い、運転マナーの向上に重点を置いた車線変更時の後続車、追従時、追い越し時の後方車間等の車間確保の体験実習
- ② 乗務員の安全確保に係る安全作業実習の他に、商品車を無傷でお客様までお届けするための車を無傷でお客様までお届けするための取り扱いについての積降作業の体験実習
- ③ 運転や積降作業は乗務員に委ねられていることから、乗務員の安全に対する意識の持ち方が事故に影響するため、運転や積降作業の実習だけでなく、「確実に見る」ことの重要性和「誤った判断」をしないと一人ひとりの乗務員の安全意識向上を目的とした研修（別添参考）
- ④ 研修会実施後には、アンケートを提出してもらい、研修の効果把握と研修内容（プログラム）の変更に活用しています。また、受講者の感想には、普段の自分の運転がいかに危険な運転だったのかと感じたとの声も聞かれています。

安全意識の向上

乗務員や管理者などが、現場の作業を安全にするため、「すべての事故ゼロ」を目標に取り組んでいますが、車両の積降作業工程の見直しや車両の改善などに関する乗務員からの提案も多く、安全に対する意識がアップしています。なお、安全管理部において提案の内容を検討し、改善することによりリスクの軽減が図られる良案は取り入れています。改善提案件数は1年目は十数件だったものが、5年後には300件までに増加し、安全意識の向上につながってきています。

「改善例」

- * 足が掛かる部分へ滑り止めテープを貼付
- * 商品車への損傷防止のプロテクターの貼付
- * 作業の安全と効率を考え柱へ取手を設置
- * フロアの渡り板の追加設置（落下防止）

等

対策策定に共通することとして・・・

「よい状態を続けることは永遠の課題」

ある対策を実施して、一時的に事故は減ったものの、しばらくすると元に戻ってしまうことがあります。安全対策によって事故が起きる危険が減ると、その分、運転が危険な方におちいることがある（例、道路の見通しがよくなった分、一時停止をしなくなる、車に安全性をサポートする設備がついた分、安全確認が不十分になる等）といわれます。

このような事態を防ぐには、安全対策にはこのような側面があること、そして、事故を起こしたときの損失を強く自覚するとともに、対策は手を変え品を変え、現実に即して工夫し続けることが必要といえるでしょう。

安全意識の向上に向けた教育資料『考えと行動』（抜粋）

- **人は持っている知識量で考えます。**
- **研修は考える訓練を行ない知恵が出るようにする訳です。**



- **あなたの人間的な幅の中には考え・感じ方・性格・人生観が含まれています。**
- **運転や安全について考えることができれば自分自身を理解できるでしょう。**
- **自分を自分で管理できれば手抜き作業や危険運転をしないように考えることができ、実行できれば会社はあなたに信頼を持つでしょう。**



- **あなたの人生観や性格から来る考え方が重要になります。**
- **行動は考えの現れであなたの行動を見れば内面が分かります。**
- **人は考えたようにしか行動しません。**
- **運転や作業をする時の考えはあなたの日常の考え方と同じです。**
- **日常生活の考え方で作業や運転をしている訳で区別はしていません。**

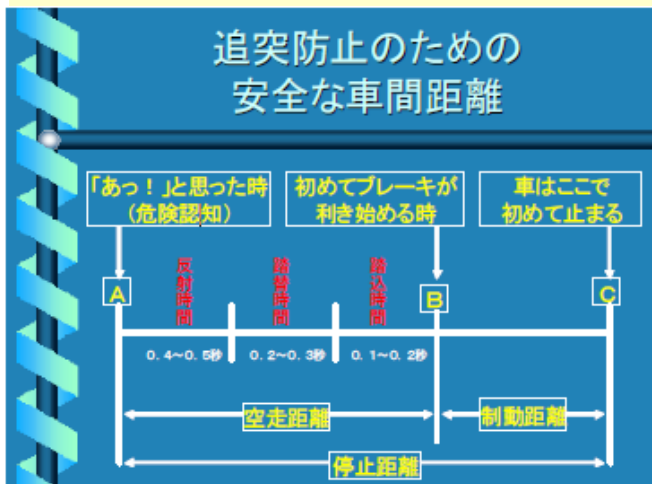
「見る」の重要性

- ・ **運転（作業）の基本は周りをよく見ることであり視ることが重要です。**
- ・ **事故防止には正確な「認知・判断・動作」が必要になります。**



運転（作業）では「積極的に見る」ことが大切

- ・ **知覚には選択の原理が働く**
- ・ **見えているものすべてが気づいているわけではなく、気づかない、あるいは無視されている部分がある**
- ・ **時には違った見え方をする可能性もある**



運転や作業での基本は、まず見る事。見た情報を正しく判断し行動します。豊富な知識量により安全行動がとれるようになります。例えば、車間距離はどれだけ取れば良いか。自分では十分とっているつもりでも実際は追突する恐れがある車間距離になっていることもあります。どれだけ車間を空ければ追突しない距離なのかを知っていれば、事故防止になります。実車による前後の車間距離確認体験で危険性を認識し、知識と合わせ安全な行動が自然に出るようにすることが狙いです。上記資料を活用し、社員の意識に訴えるような教育を実施しています。